門司区

●西門司市民センター

●小森江西市民センター

市民センターにおける生涯学習事業

区	門司区	センター名	西門司市民センター

事業・活動名

「野の花」を通した生涯学習活動

事業・活動の背景とねらい・目的

西門司市民センターは公園と隣接しており、そこでは多種多様な草花を見ることができる。しかし、野の草花は雑草と一括りにされ、邪魔もの扱いされることも多い。これまで目にもとめなかった足元の小さな草花の一つ一つに名前があることや、その特徴、ちょっとした雑学など、健気に生きる野の草花への小さな気づきの連続が、人間本来の生き方にまで思いを至らせてくれるものになるのでは、と企画された講座。野の花を介した受講生同士の学び合いも期待できることから、生きがいや繋がりづくりも図っている。
地域に根づく草花への理解と愛着を深め、身近な草花を話題に語り合う仲間も増えていく、そんな優しいまちを目指す。

取組内容

担当職員の「野の花が好き」という思いから生まれた講座。2020 年に「西門司探訪～野の花と語ろう」と題し、第１回目の講座を実施。受講生の「続けて学びたい」という声を受け、これまで計６回にわたり講座を実施している。座学の際は、部屋を草花で埋めるような空間づくりを行うこともあり、受講生のワクワク感を高めている。座学後にはセンターの外に飛び出し、フィールドワーク形式で学ぶことで、実際に市民センターの周りにある草花を、「見て、触れて、感じる」ことのできる内容となっている。草花を切り口に万葉集の一句を楽しみながら歳時記について学んだり、季節を感じる内容にするなど、自由な発想で講師と雑談を重ねながら講座計画を練り、学びを展開させている。大人だけでなく、子どもを対象にした講座も実施している。

成果・効果

地域の草花について講師から知識を得るだけでなく、受講生同士も互いに知っていることを教え合うなど和やかな雰囲気で学び合いの場づくりができている。また、その草花にまつわる幼いころの思い出を雑談の中で共有し、眠っていた古い記憶を呼び覚ますことで、受講生同士の心の距離も近づき、講座後には頭も心も元気になって帰っていく様子が見える。さらに、受講生の中からは、講座参加をきっかけに、草花について学んだことや更に調べたことを 1 冊の植物図鑑にまとめる方も出てきた。それをきっかけに、市民センター内に「野の花展示コーナー」がつくられ、そこに図鑑も掲示された。図鑑作成の受講生は文化祭の際に、野の花について説明をする役割も担った。「野の花展示コーナー」は定期的に地域住民が草花の入れ替えを行うことで、現在もずっと存続し、季節を感じられる西門司名物コーナーとなっている。囲碁クラブでセンターに来る男性や放課後遊びに来る子ども達など、老若男女を問わず、誰にとっても身近な存在である草花を通していろんな雑談が生まれていることが何よりの喜び。小さな雑談が学び合いとなり、仲間づくりに繋がっていること、学びを活かす場づくりが行われていること、それによって更に興味の輪が広がっていることが、センターを中心とした「学びの環」として生きている。

今後の取組

・昔は咲いていたが、今は目にしなくなった草花などあれば、なぜ見なくなったのかも含め検証してみる（環境問題）・野の花について語る（仲間づくり）、など、野の花をキーワードに好奇心の赴くまま自由な発想で更に学びを広げ、深めていきたい。自発的な学びや繋がりづくりを進めていくことが地域住民の健康寿命の延伸や認知症予防にも繋がると期待している。参加する方たちが学び、集い、自由に学んだことを表現できる場として市民センターを更に活用してもらえるよう、クラブ化も視野に入れつつ今後取り組んでいく。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

西門司地域に限らず、どの地域にも多彩な草花が生きている。何気ない野の花を題材として学びを展開することは、どの地域でも真似のできる取り組み。

活動の様子

知れば知るほど、小さな野の花たちに愛情が湧いてきます。「今まで雑草と思って抜いて可哀そうなことをした💧」なんて声も。

子ども達は、ネイチャービンゴで秋を沢山見つけました！

【野の花展示コーナー】
「こんな花が道端に咲いていたのね」と、多くの方が足をとめる西門司市民センターの名物コーナー。季節感を感じられる癒しのスペースです。

地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

生涯学習推進コーディネーター研修で取り組みや展示を紹介する等、他センターへの情報の共有を図っている。機会があれば活動者に声掛けし、注目していることを伝えている。

作成者

門司区役所コミュニティ支援課　地域・人づくりアドバイザー　西 友子

市民センターにおける生涯学習事業

区	門司区	センター名	小森江西市民センター

事業・活動名

僕らがつくる　私たちがつくる！おばけ屋敷

事業・活動の背景とねらい・目的

小森江西校区の令和６年３月現在の人口は、2,486 人。うち 65 歳以上の人口は、1,077 人で、高齢化率 43.3%と少子高齢化が顕著な地域である。児童数の減少により、校区の小学校は令和 5 年に近接の学校と統合した。少子高齢化が進む中、子どもたちにスポットを当て、「わが町を子どもの声の響く場所にしたい」と、令和４年から小森江西校区ではおばけ屋敷を毎年実施している。

取組内容

市民センターで開催するお化け屋敷イベント。地域の子どもたちが中心となり運営する。実施日は１日だが、子どもたちが地域の大人たちとともに、コンセプト決めなどの企画から準備、運営、振り返りまで行うため、一年がかりで取り組む。毎年異なるコンセプトで、お化け屋敷を実施している。令和６年度で３回目となる。

成果・効果

子どもたちは「お化け屋敷」の計画や運営に一貫して取り組むことで、「自分たちのお化け屋敷」という意識を持ち、責任感と達成感を感じられるイベントとなっている。また、大人たちも子どもたちの役割を奪わないことを大切にしサポート役に徹することで、温かいまなざしの大切さ、手を出しすぎないことの難しさを学んでいる。
また、この事業を通して、子どもたちが普段あまり交流することのない他学年の子どもや様々な大人と関わることで、お互いに顔の見える関係づくりができている。
さらに、毎年参加する子どもたちの年齢が上がるにつれ、教えられる側だった子どもがリーダーとなるなど、子どもたちの成長と変化を地域の大人たちが感じることができることから、地域の子育て支援の意識向上にも繋がっている。

今後の取組

本事業では、子どもたちの自主性を育み、健やかな育ちを支援することを目的にしている。子ども達の声を引き出し、大人が支援する形で思いを実現することはできるようになった。今後は子どもたちが提案したことを自分たちの力で実現するところまで持っていく「言葉を行動につなげる」アプローチをさらに行っていきたい。また、本事業を今後も継続していくために、誰にもわかりやすいマニュアルを作り、誰でも気軽に関われるよう工夫したい。さらに、よりスムーズなボランテイアとの連絡方法（SNS 等）を模索するなど、スタッフの労力を軽減すべく仕事のスリム化、効率化を進めたい。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

地域と学校が一丸となって子どもたちの支援をしていくため、統合により同小学校区となる小森江東市民センターや小学校との連携について今後さらに模索していく。そのきっかけづくりともなる、このような事業をしっかりと継続していくことが重要であると考える。

活動の様子

子ども達手作りのポスター！

子ども達も真剣！会議の様子

子どもたちのアイデアで、広報活動も頑張りました！

子どもたちのイメージする世界観を表現しようと、近隣の山から木を伐りだして館内を装飾する地域の皆さん

当日は運営ボランテイアさんが多数参加

まち協会長は参加賞配布

当日は校長先生も来てくれました♪

地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

子どもたちの声を引き出す手法を学びつつ、子どもたち主体の計画・運営を行いたいというセンターの要望により、コーディネーターとして講師を紹介した。未来の種事業への参加も提案するともにマスコミへの報道投げ込みも行った。企画会議に参加するなど、事業の経過を見守り、館長から相談があればともに考え支援した。

作成者

門司区役所コミュニティ支援課　地域・人づくりアドバイザー　西 友子